

確率の順位付け

針谷祐	(東北大・理)
服部久美子	(首都大・数理)
服部哲弥	(慶應大・経済)
永幡幸生	(大阪大・基礎工)
竹島佑介	(富国生命)
小林孝長	(仙台二高)

2010.11.20 語ろう「数理解析」(芝浦工業大学大学院 工学研究科)

1 . 確率的順位付け模型

数学会応用数学分科会一般講演 (近畿大学 08'03)

Stochastic ranking process (確率的順位付け模型)

N 自然数 (粒子数), 時刻 $t \geq 0$,

$X^{(N)} = (X_1^{(N)}, \dots, X_N^{(N)}) : \mathbb{N}^N$ 値確率過程

初期値 $X_i^{(N)}(0) = x_i^{(N)}$; $\{x_i^{(N)} \mid i = 1, 2, \dots, N\} = \{1, 2, \dots, N\}$

$$X_i^{(N)}(t) = x_i^{(N)} + \sum_{k=1}^N \int_0^t \mathbf{1}_{X_k^{(N)}(s-0) > X_i^{(N)}(s-0)} \nu_k^{(N)}(ds) \\ + \int_0^t (1 - X_i^{(N)}(s-0)) \nu_i^{(N)}(ds), \quad i = 1, \dots, N, t \geq 0$$

$\mathbf{1}_A$ は事象 A の定義関数,

$\nu_i^{(N)} : (\Omega, \mathcal{B}(\mathbb{R}_+)) \rightarrow \mathbb{Z}_+$ (増分 1 に集中した) ポワソンランダム測度;

i について独立, 強度 $\rho_i^{(N)} = \mathbb{E}[\nu_i^{(N)}]$ は連続測度 ($\rho_i^{(N)}(\{t\}) = 0$)

例 (一様): $\rho_i^{(N)}((0, t]) = w_i^{(N)} t$

ポワッソンランダム測度 (ポワッソン確率過程)

(数学的定義: 納得力ゼロの人に自発的再構成を期待する説明方法)

(増分1に集中した)強度 $\rho = E[\nu]$ のポワッソンランダム測度 ν :
 $(\Omega, \mathcal{B}(\mathbb{R}_+)) \rightarrow \mathbb{Z}_+$

- 確率1のサンプル $\omega \in \Omega$ 毎に $\nu(\omega, \cdot)$ は \mathbb{Z}_+ に値を取る \mathbb{R}_+ 上の測度 (\mathbb{R}_+ にばらまかれた個数)
- $\nu(A) = \nu(\cdot, A)$ の分布は平均 $\rho(A)$ のポワッソン分布
- $A \cap B = \emptyset$ ならば $\nu(A)$ と $\nu(B)$ は独立

$\rho((0, t]) = t, \geq 0$, のとき, $Z_t = \nu((0, t])$ は一様ポワッソン過程

先頭に跳ぶ規則

時刻 t の粒子 i の順位 (再掲) $X_i^{(N)}(t) = x_i^{(N)}$

$$+ \sum_{k=1}^N \int_0^t \mathbf{1}_{X_k^{(N)}(s-0) > X_i^{(N)}(s-0)} \nu_k^{(N)}(ds) + \int_0^t (1 - X_i^{(N)}(s-0)) \nu_i^{(N)}(ds)$$

添字 i = 粒子名 (ゼッケン), $X_i^{(N)}(t)$ = 最後に先頭に跳んだ順に並べるとき時刻 t での列の中での i の位置 (順位)

$\nu_i^{(N)}((a, b])$: $a < t \leq b$ に粒子 i が先頭に跳んだ ($X_i^{(N)}(t) = 1$) 回数

$$\text{先頭に跳ぶ時刻 } \nu_i^{(N)}(\omega) = \sum_{j=1}^{\infty} \delta_{\tau_{i,j}^{(N)}}(\omega) ; 0 < \tau_{i,1}^{(N)} < \tau_{i,2}^{(N)} < \dots$$

• 確率 1 で $\{\tau_{i,j}^{(N)} \mid i = 1, \dots, N, j \in \mathbb{N}\}$ は互いに異なる

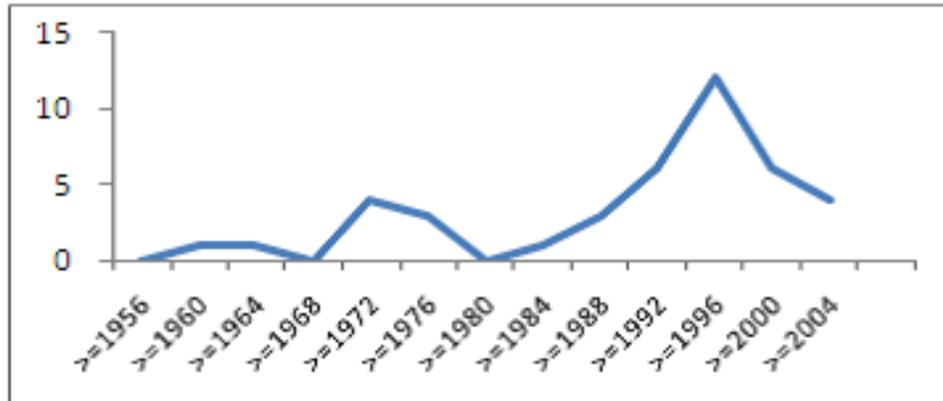
$$\bullet \int F(s) \nu_i^{(N)}(ds) = \sum_j F(\tau_{i,j}^{(N)})$$

$$\bullet X_i^{(N)}(\tau_{i,j}^{(N)}) = 1$$

$$\bullet X_{i'}^{(N)}(\tau_{i,j}^{(N)}) = X_{i'}^{(N)}(\tau_{i,j}^{(N)}-) + 1 \quad (\forall i'; X_{i'}^{(N)}(\tau_{i,j}^{(N)}-) < X_i^{(N)}(\tau_{i,j}^{(N)}-))$$

確率ランキングモデルへの注

- 流行に従う順位付けの究極の単純化 (超整理法)
- Move-to-front 規則の文献は M.L. Tsetlin (1963) 以来, 再発見を繰り返す



- 初期の興味は定常分布の存在 「机上の本を片付けられるとがっかり」
- メモリーへのデータ配置 (Least-Recently-Used caching)
- 最近の流行 (?): top-to-random shuffling (時間反転系)
(ジャンプ率 w は一種, モンテカルロ法の定常分布への収束との関連)
- 誰も言及しない待ち行列との対応: 右端がアトラクションの入場口. 極端な入場制限のため, 諦めて出て行くことだけで列が動く. 出た分だけ後ろに並んで一定の長さ. ジャンプ率はあきらめの早さ.
- 確率ランキングモデル: ジャンプ率分布の大数の法則 (cf. 粒子 i の区別)
流体力学的極限: 微視粒子 (確率過程) 多数 巨視的分布 (PDE)

* . 目次

- 1 . Move-to-front 規則 (モデルの定義)
- * . 目次 今, ココ
- 2 . 大数の法則 (軌道, 位置強度結合経験分布)
- 3 . Amazon データへの当てはめとロングテール
- 4 . 2ch.net データと指数の普遍性, 強度の昼夜差
- 5 . まとめと展望

2 . 大数の法則 (軌道 , 位置強度結合経験分布)

ジャンプ済み粒子と未ジャンプ粒子の境界: $Y_C^{(N)}(t) = \frac{1}{N} \sum_{i=1}^N \mathbf{1}_{\tau_{i,1}^{(N)} \leq t}$

命題 . $\lambda_t^{(N)} = \frac{1}{N} \sum_{i=1}^N \delta_{\rho_i^{(N)}}((0,t]) \rightarrow \exists \lambda_t (N \rightarrow \infty)$ ならば ,

$$Y_C^{(N)}(t) \rightarrow y_C(t) = 1 - \int_0^\infty e^{-s} \lambda_t(ds) \quad (N \rightarrow \infty, \text{概収束})$$

さらに λ_t が t に連続なら path として (時刻の各点収束位相で) 概収束 \diamond

証明 : 独立確率変数の和の大数の強法則 : $Y_C^{(N)}(t) - \mathbb{E}[Y_C^{(N)}(t)] \rightarrow 0$
+ ポワソン分布 : $P[\tau_1 > t] = P[\nu((0,t]) = 0] = e^{-\rho((0,t])}$

流れの中の粒子の軌道

$$\begin{aligned} x_i^{(N)} = 1, 0 \leq t < \tau_i^{(N)} \text{ のとき, } X_i^{(N)}(t) - 1 \\ = \sum_{k=1}^N \int_0^t \mathbf{1}_{X_k^{(N)}(s-0) > X_i^{(N)}(s-0)} \nu_k^{(N)}(ds) = \sum_{i=1}^N \mathbf{1}_{\tau_{i,1}^{(N)} \leq t} = NY_C^{(N)}(t) \end{aligned}$$

注目粒子が先頭に跳んだ時刻を $t = 0$ とすると

次にジャンプするまでの粒子の軌道

命題(再掲) $\frac{1}{N} \sum_{i=1}^N \delta_{\rho_i^{(N)}}((0,t]) \rightarrow \lambda_t \Rightarrow Y_C^{(N)}(t) \rightarrow y_C(t) = 1 - \int_0^\infty e^{-s} \lambda_t(ds)$

- 強度が小さい(ジャンプ率 w が小の) 粒子のジャンプ数は揺らぐが, そういう粒子が多数あるので, 軌道は決定論的
- $y_C(t)$ は観測され, 強度(ジャンプ率)分布 λ を推定できる(後述)

位置 - 強度結合経験分布の収束

強度 ρ (ジャンプ率) と規格化順位 $Y_i^{(N)} = \frac{1}{N} (X_i^{(N)} - 1)$ の結合経験分布 :

$$\mu_t^{(N)} = \frac{1}{N} \sum_{i=1}^N \delta_{(\rho_i^{(N)}, Y_i^{(N)})(t)}$$

混合液の濃度分布をミクロに計測 (分布値確率変数 : 度数分布, 揺らぎあり)

定理 . $\mu_0^{(N)} \rightarrow \exists \mu_0$ ($N \rightarrow \infty$), かつ, 各 $0 \leq s < t$ に対して $N \rightarrow \infty$ で

$$\frac{1}{N} \sum_{i=1}^N \delta_{\rho_i^{(N)}((s,t))} \rightarrow \int_{\mathcal{M}(\mathbb{R}_+)} \delta_{\rho((s,t))} \wedge (d\rho); \wedge (d\rho) = \mu_0(d\rho \times [0, 1))$$

ならば, 各 $t > 0$ に対して $\mu_t^{(N)} \rightarrow \mu_t$ ($N \rightarrow \infty$, 概収束).

ここで μ_t は次頁にあらわに与える非ランダムな分布 .



μ_t : 混合液の濃度分布をマクロに計測 (確定した分布 : 揺らぎなし)

極限分布

$\mu_t^{(N)} \rightarrow \mu_t$. ここで μ_t は: $U(d\rho, y, t) := \mu_t(d\rho \times [y, 1))$

$$= \begin{cases} e^{-\rho((t-t_0(y,t),t])} \Lambda(d\rho), & 0 \leq y \leq y_C(t), \\ e^{-\rho((0,t])} U(d\rho, \hat{y}(y,t), 0), & y_C(t) \leq y < 1. \end{cases}$$

t_0 は $y_A(t_0, t) = 1 - \int_{\mathcal{M}(\mathbb{R}_+)} e^{-\rho((t-t_0,t])} \Lambda(d\rho)$,

\hat{y} は $y_B(y, t) = 1 - \int_{\mathcal{M}(\mathbb{R}_+)} e^{-\rho((0,t])} \mu_0(d\rho \times [y, 1))$ の, 逆関数

$$y_C(t) = y_A(t, t) = y_B(0, t)$$

極限を記述する偏微分方程式

簡単のため，有限種で密度（ジャンプ率関数）を持つ強度の場合：

$$\Lambda = \sum_{\beta} r_{\beta} \delta_{\rho_{\beta}}, \quad \rho_{\beta}(A) = \int_A w_{\beta}(u) du, \quad w_{\beta}, r_{\beta} > 0$$

定理 . $\sum_{\beta} r_{\beta} = 1, \sum_{\beta} r_{\beta} w_{\beta}(t) < \infty, u_{\alpha} : [0, 1) \rightarrow \mathbb{R}_+$: 非負滑らか狭義減少，

$\sum_{\beta} u_{\beta}(y) = 1 - y$ ならば， $U_{\alpha}(y, t) = U(\{\rho_{\alpha}\}, y, t)$ は次の偏微分方程式系の初

期値問題の時間大局的一意古典解：

$$\frac{\partial U_{\alpha}}{\partial t}(y, t) + \sum_{\beta} w_{\beta}(t) U_{\beta}(y, t) \frac{\partial U_{\alpha}}{\partial y}(y, t) = -w_{\alpha}(t) U_{\alpha}(y, t),$$

境界条件 $U_{\alpha}(0, t) = r_{\alpha}$ ，初期値 $U_{\alpha}(\cdot, 0) = u_{\alpha}(\cdot)$, ◇

- 解が逆関数 (t_0, \hat{y}) で書かれる理由 - 特性曲線の方法 (y_A, y_B, y_C)
- 1次元非圧縮性混合流体の蒸発による運動における時刻 t に y の右にある流体 α の量

定理の意味 - 簡単なこと

- ミクロはランダム多自由度，マクロは決定論的少自由度
(cf. Amazon.co.jpの本 $N = O(10^6)$)
 - 順位の先頭付近はjump率の高い粒子が多く tailは低い粒子が多い
 - 上位側 ($y \leq y_C(t)$) では初期値 ($\mu_0 = U(\cdot, \cdot, 0)$) によらない
 - randomnessは先頭へのジャンプのみで，それが位置によらない：
平均場的
 - cf. TASEP (1次元格子上的多粒子系で空き格子に左から粒子が移れる) の流体力学的極限は inviscid Burgers - 解が爆発
- さっきの定理：位置ジャンプ率結合分布のPDEは時間大局的古典解
(確率ランキング模型はやさしい)

定理の意味 - ロングテールビジネスモデル

- 簡単のため, 時間的に一様なジャンプ率で定常 ($t = \infty$) な場合:

$$\rho((0, t]) = wt, \quad w \text{ の分布 } \lambda(dw) = \mu_\infty(dw \times [0, 1)),$$

$$\mu_\infty(dw \times [y, 1)) = e^{-wt_0(y)} \lambda(dw); \quad 1 - y = \int_{\mathbb{R}_+} e^{-wt_0(y)} \lambda(dw)$$

- **ロングテール** (列の後ろ = その他大勢 = 大多数の, めったに先頭になれない粒子)

$$\text{時刻 } t \text{ 以降最初に先頭に飛んだ粒子 } I(t) \text{ の直前の位置: } C_N(t) = X_{I(N)(t)}^{(N)}(t)$$

$$[y, 1) \text{ (tail 側) にいたものの割合 } P\left[\frac{1}{N}C_N(t) \geq y\right] \rightarrow \frac{\int_{\mathbb{R}_+} w \mu_\infty(dw \times [y, 1))}{\int_{\mathbb{R}_+} w \lambda(dw)}$$

- Amazon.co.jp ランキングでは**テール側からの売り上げへの寄与**

LRU-caching では cache fault の確率

$$\text{例 . Pareto 分布: } a, b > 0, \quad \lambda([0, w]) = 1 - (a/w)^b \quad (w \geq a) \quad (w_i = a(N/i)^{1/b})$$

$y > 0$ のとき分子は有限正

$$b > 1: \int_{\mathbb{R}_+} w \lambda(dw) = \frac{ab}{b-1}, \quad 0 < b < 1: = \infty \quad (y = +0 \text{ の寄与が発散})$$

ロングテールビジネスが意味を持ちうるのは $b > 1$

証明についてのコメント

強度が有限種類 (Λ が有限集合) ならば各種類毎の収束 初期の結果に帰着

Λ が「巨大」(関数形が非可算無限種類) なとき:

主張の内容は, 確率 1 の事象 $\tilde{\Omega}$ の sample ω について, 任意の有界連続な f に対して

$$\lim_{N \rightarrow \infty} \int_{\mathcal{M}(\mathbb{R}_+) \times [0,1]} f(\rho, y) \mu_t^{(N)}(d\rho \times dy) = \int_{\mathcal{M}(\mathbb{R}_+) \times [0,1]} f(\rho, y) \mu_t(d\rho \times dy)$$

- $\mathcal{M}(\mathbb{R}_+) \times [0, 1)$ が可分完備距離空間なので, 可算個の $f = f_n$ で言えば良いことが知られている
個別に Ω'_n を選んで証明し, $\tilde{\Omega} = \bigcap_n \Omega'_n$. y 方向については $\chi[y, 1)$ の重ね合わせで近似

- $\lim_{N \rightarrow \infty} \frac{1}{N} \sum_{i=1}^N g(\rho_i^{(N)}) \mathbf{1}_{Y_i^{(N)}(\omega)(t) \geq y} = \int_{\mathcal{M}(\mathbb{R}_+)} g(\rho) \mu_t(d\rho \times [y, 1))$ に帰着

- 従属確率変数の大数の法則 (右側の粒子が飛んだときだけ影響)
同じ極限を持つ扱いやすい確率変数

補題 . $y \leq y_C(t)$ のとき $\frac{1}{N} \sum_{i=1}^N | \mathbf{1}_{Y_i^{(N)}(t) < y} - \mathbf{1}_{\nu_i^{(N)}((t-t_0(y,t), t]) > 0} | \rightarrow 0, \text{ a.s.}$

最近の進展 . ($\#\Lambda < \infty$ のとき) $\mu_t^{(N)}(\{w\} \times [y, 1))$ と極限の差を, martingale (+ 小さい量) で表して, Doob の不等式と Gronwall の定理で証明できる . Tagged particle の収束も同様に証明 (永幡幸生)

3 . Amazon データへの当てはめとロングテール

- [Amazon.co.jp](https://www.amazon.co.jp) ランキング : インターネット時代の新しい応用
- ロングテールビジネスモデルの検証
- 掲示板集合体 2ch.net のスレッド一覧
- ブログ集合体 (ameblo.jp) , 機関リポジトリの論文アクセス

Amazon.co.jp ランキング

Amazon.co.jp: ランダムウォ... x

http://www.amazon.co.jp/ランダムウォークとくりこみ群—確率論から数理物理学へ

amazon.co.jp

検索 和書 GO

和書 詳細検索 ジャンル 新刊・予約 ベストセラー ハリー・ポッター

ランダムウォークとくりこみ群—確率論から数理物理学へ (新しい解析学の流れ) (単行本)
服部 哲弥 (著)
まだカスタマーレビューはありません。 [今すぐどうぞ。](#)

価格: ¥ 4,725 (税込) この商品は 1500円以上国内配送料無料で利用して配送されます。 [詳細](#)

在庫あり。 在庫状況について詳しくは [こちら](#)
この商品は、Amazon.co.jp が販売、発送します。ギフト包装を利用できます。

1点在庫あり。ご注文はお早めに。

単行本: 352ページ
出版社: 共立出版 (2004/08)
発売日: 2004/08
商品の寸法: 21.2 x 15.2 x 3.2 cm
おすすめ度: まだカスタマーレビューはありません。 [今すぐどうぞ。](#)
Amazon.co.jp ランキング: 本で52,940位

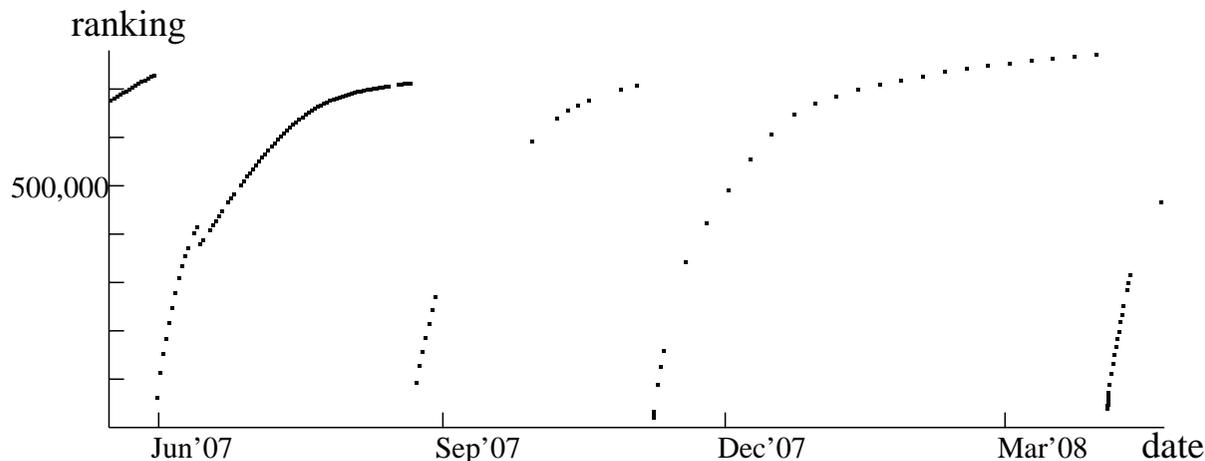
amazon.co.jp®

「どういう計算方法なのか
わからないAmazonの謎
順位」 (2006年末, 佐々木将
人(函館簡裁)@数理科学ML)

ランキングの時間変化

- (さほど売れない本を) **じっくり** 観察すればわかる

実際は、モデルにたどりついて、公式を作ってから、検証のためにじっくり観察した



上位への大きなジャンプ - アマゾンのウェブで注文することに対応
1冊でも、中古でも

「(1冊買うだけで) 1位に飛ぶか？」 大多数の本にとっては良い近似！

大多数の本にとって、最近の流行 = 最後に売れた時刻

注文が独立ならば確率ランキングモデルが良い近似

理論軌道への当てはめと Pareto 分布

$$x_i^{(N)} = 1, 0 \leq t < \tau_i^{(N)} \text{ のとき } Y_i^{(N)}(t) = Y_C^{(N)}(t) + \frac{1}{N}$$

本の順位を最後に売れた時刻を $t = 0$ と取り直して，次に売れるまでを $NY_C(t)$ に当てはめる

$$x_C(t) \simeq N - N \int_0^\infty e^{-s} \lambda_t(ds)$$

実際のデータに当てはめるためには，ジャンプ率の分布 λ_t が必要
社会学や経済学では（一般化された）Pareto 分布がよく用いられる

離散版 (Zipf の法則) $w_i^{(N)} = a \left(\frac{N}{i} \right)^{1/b}$; a : 最低収入, b : 平等性の指数

$x_C(t) \simeq N y_C(t) \simeq N(1 - b(at)^b \Gamma(-b, at))$; $\Gamma(z, p) = \int_p^\infty e^{-x} x^{z-1} dx$
 N, a, b を与えれば決まる（データを使って統計的当てはめ）

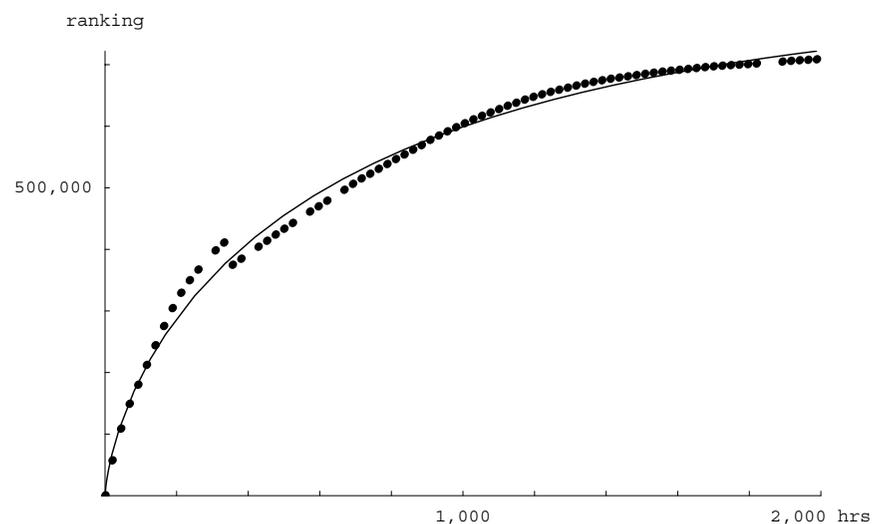
Amazon.co.jpはロングテールではない！

毎日21時のランキング

'07.6-9 (逃したら諦める)

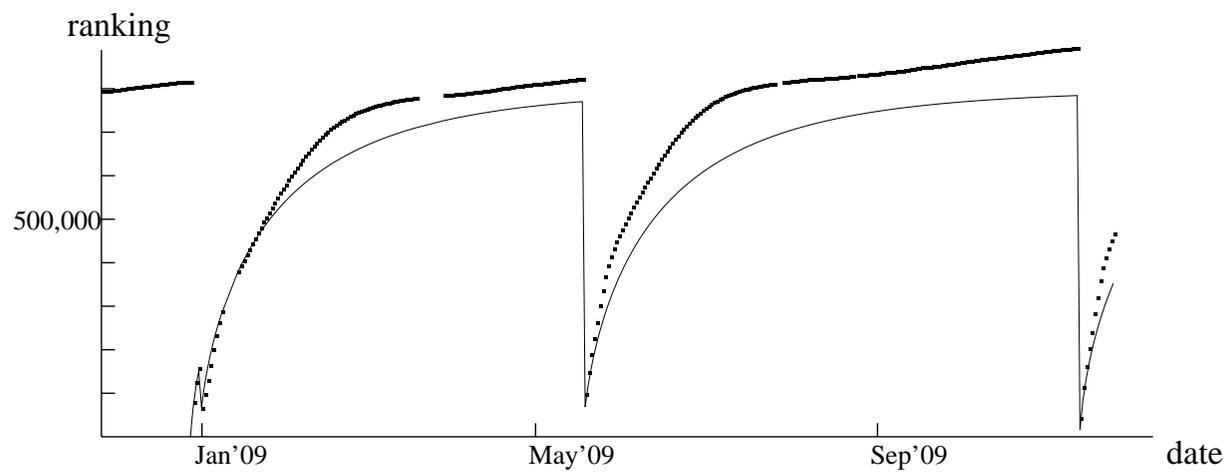
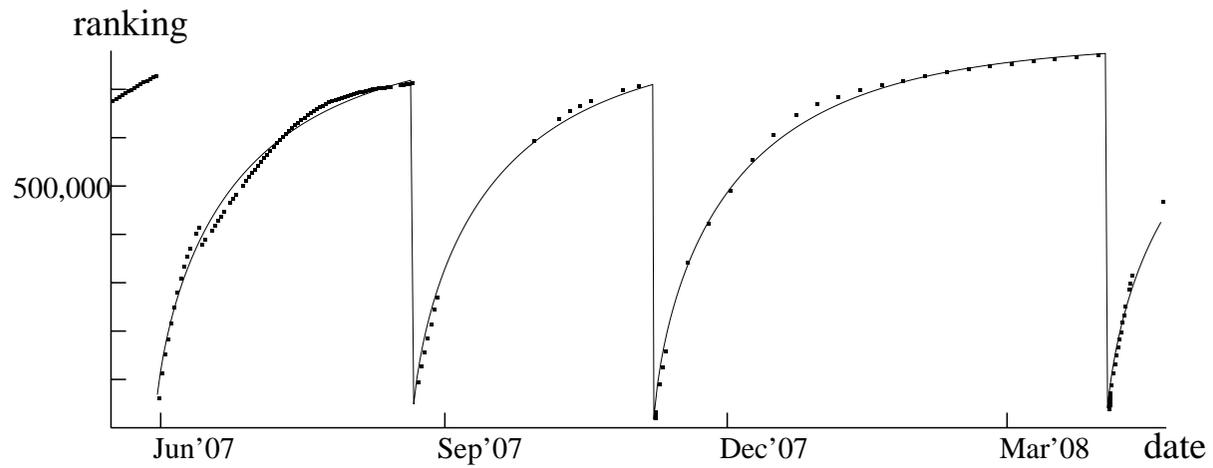
$(N^*, a^*, b^*) =$

$(8 \times 10^5, 6 \times 10^{-4}, 0.81)$



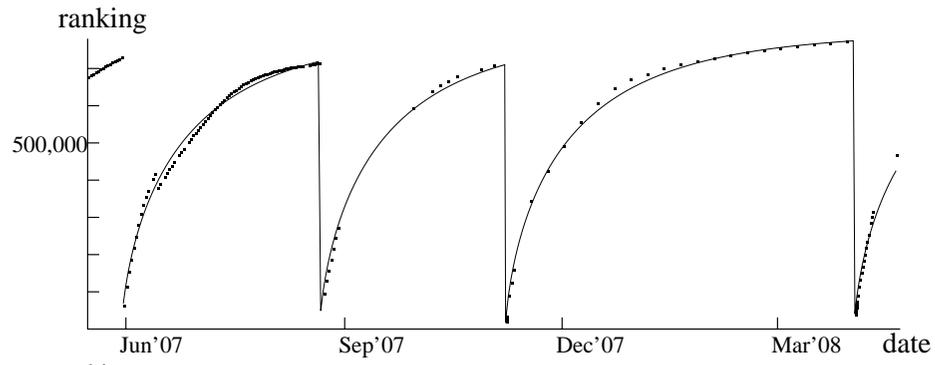
- $b < 1$ 「不平等」上位 $o(N)$ 冊が売り上げの全てを占める
ロングテール型ではなく、ベストセラー依存型のビジネスモデル

4 .2ch.net データと指数の普遍性 , 強度の昼夜差

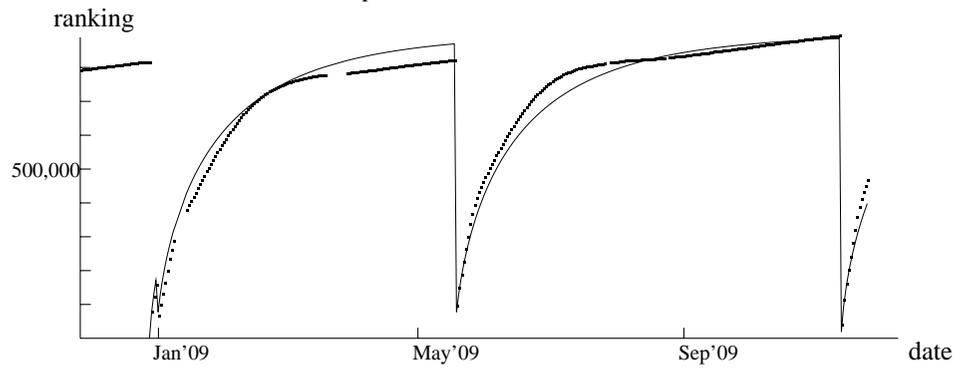


Amazon.co.jp ランキング (本の順位) 1時間毎に更新

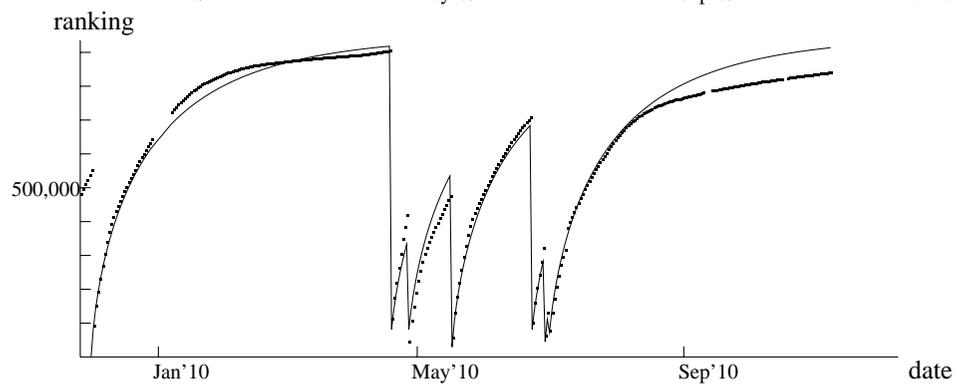
冊数の変化



$N = 80$ 万 (2007 年)

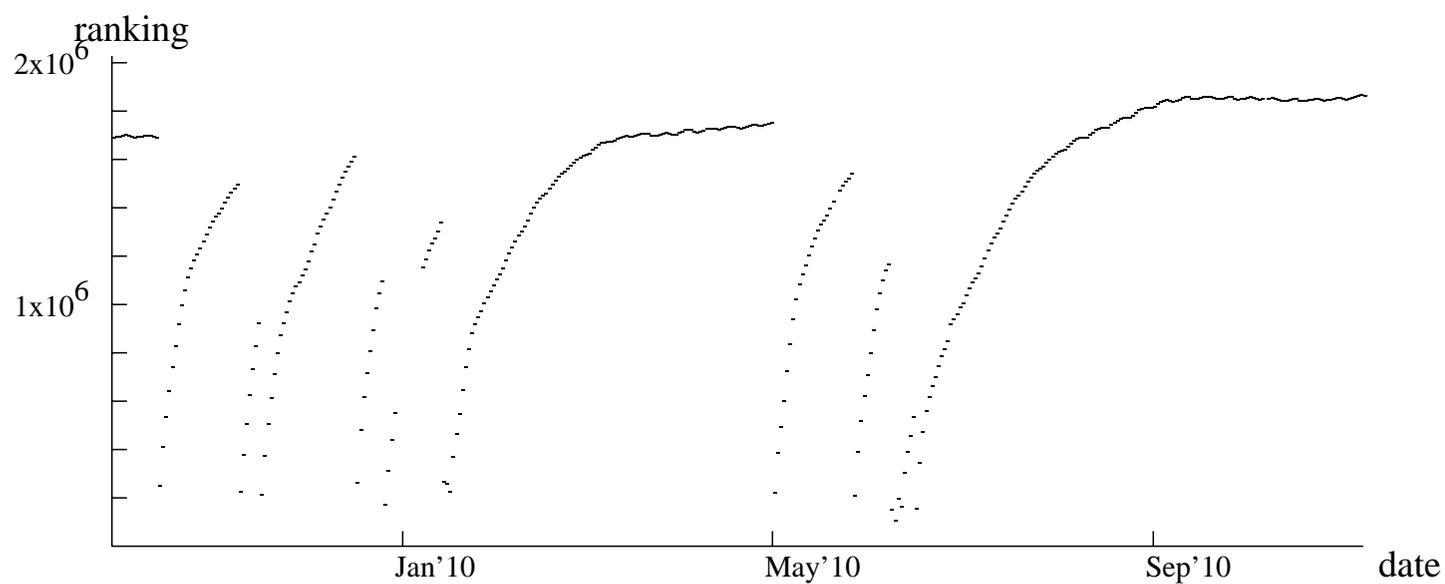
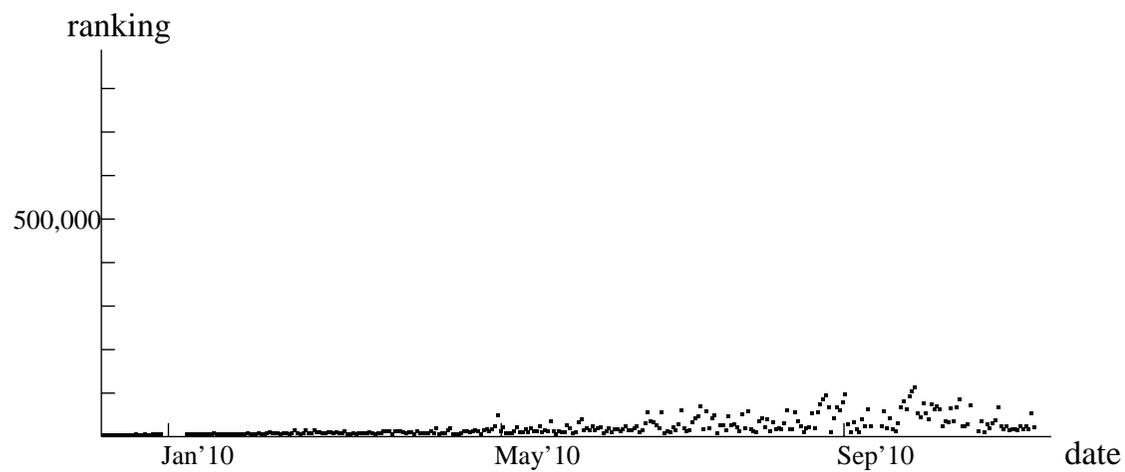


$N = 90$ 万 (2008 年)

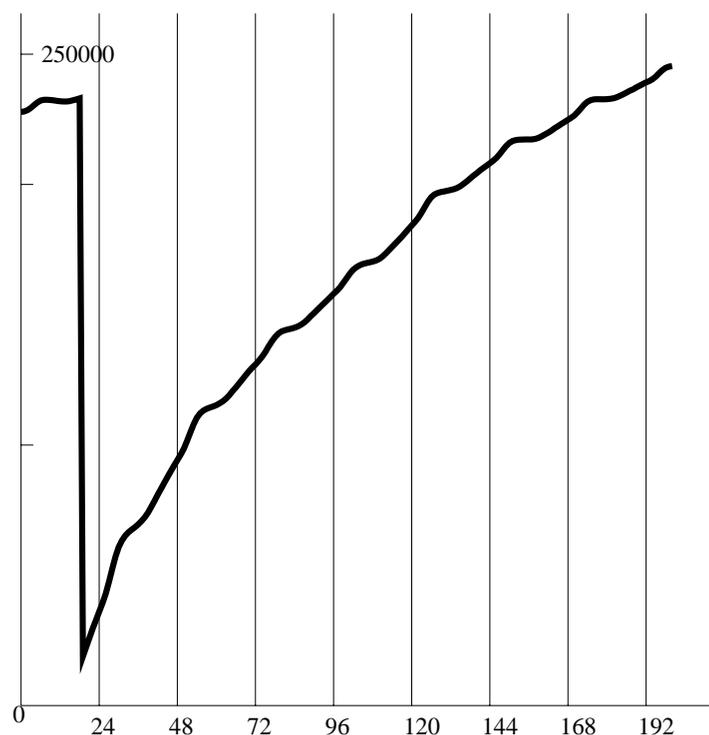


$N = 95$ 万 (2009 年)

おまけ (有名文化人著作とamazon.com)



ジャンプ率の時刻依存性



社会活動の昼夜差

- ジャンプ率 $w_i^{(N)}$ が定数とした公式に当てはめて得た結論の再検証
結論：正しいデータ利用方法だったので大丈夫
- データと拡張した理論から，購入活動の昼夜差を逆算できるか？

日内変動に影響されないデータ採取

λ_t : 時刻の関数丸ごと (無限パラメータ) はデータから決まらない

- **共通の時刻依存性**: $w_i^{(N)}(t) = w_i^{(N)} a(t)$, $w_i^{(N)} > 0$

$$\lambda_t^{(N)} = \frac{1}{N} \sum_{i=1}^N \delta_{w_i^{(N)}} A(t) \rightarrow \exists \lambda_t; A(t) = \int_0^t a(u) du$$

- $a(t)$ が周期24の**周期関数**の場合: 積分 $A(t) = t +$ **周期関数**
 - 毎日**定時**に得たデータのみ用る (**逃したら諦める**) 場合は, 日内変動があっても平均ジャンプ率と等しい時間発展 (変動効果は時刻の原点に吸収される)
- 今までのデータ解析は正当化された** (共通でない時刻依存性は誤差扱い)

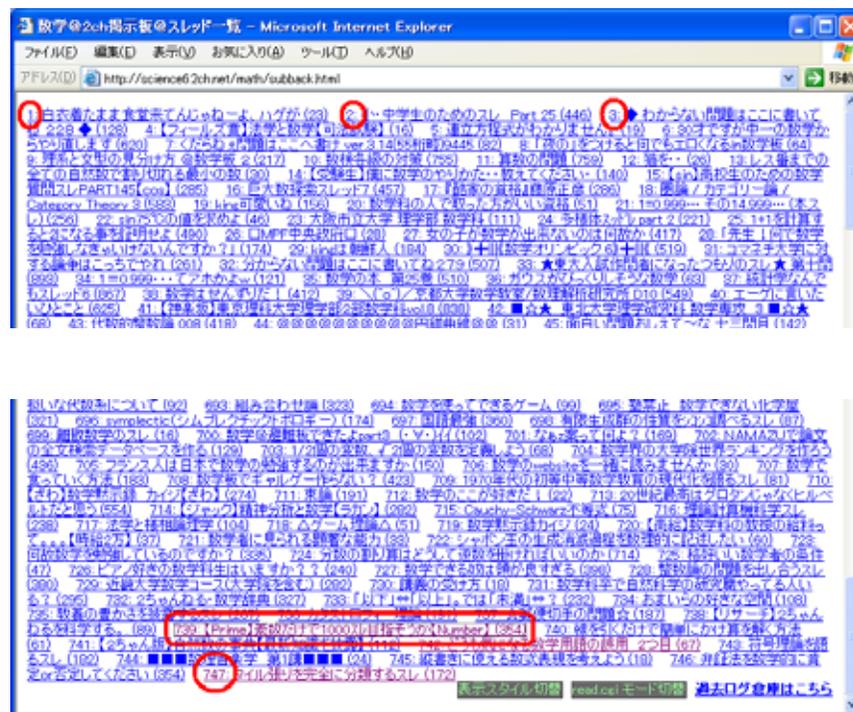
2ch.netのスレッド一覧

2チャンネル (2ch.net) :
web 掲示板の巨大な集まり

スレッド (ページ) 一覧 :
「書き込んだスレが1位」:
一覧の順序は

move-to-front 規則

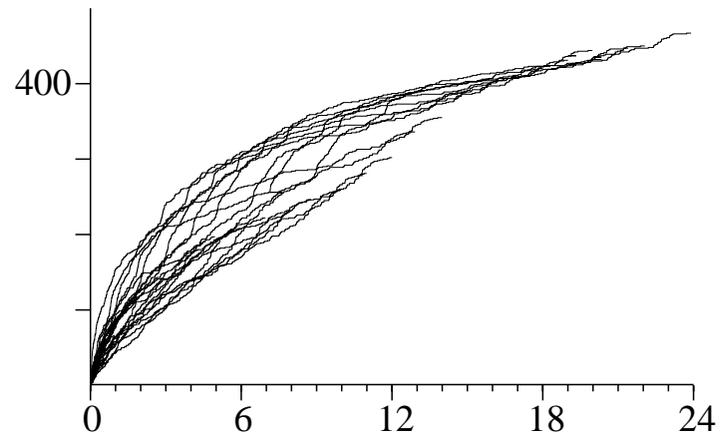
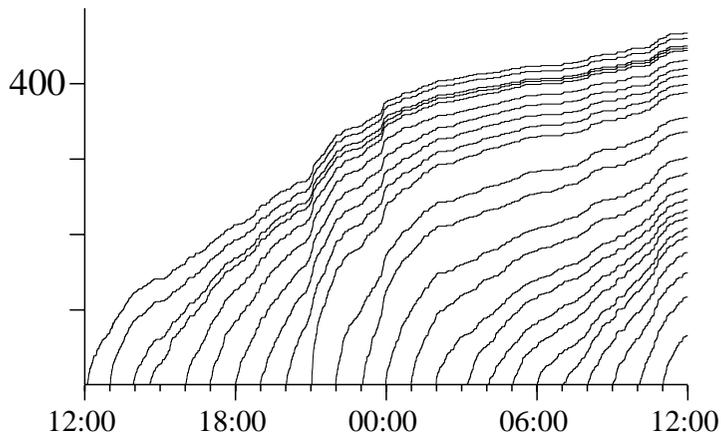
(注 : sage 進行は除く)



書き込み情報公開 \Rightarrow λ_t を直接観測できるので, 直接の現実的意義はないが, 方法論の検証やパラメータの普遍性の検討に使える

● アマゾン教えてくれないので, ランキングから探る **実用上の意義**

スレー覧の順位変化



スレたちの順位の時間変化

各スレ最後に1位になって（誰かが書き込んで）以降の時間変化

（全 $N = 697$ スレ，08/10/18 24時間約4000jump．24スレッドのみ表示）

右図は1位になった時刻を0に取り直して重ねた図

昼夜差のため，1つの関数 $y_C(t)$ に重ならない

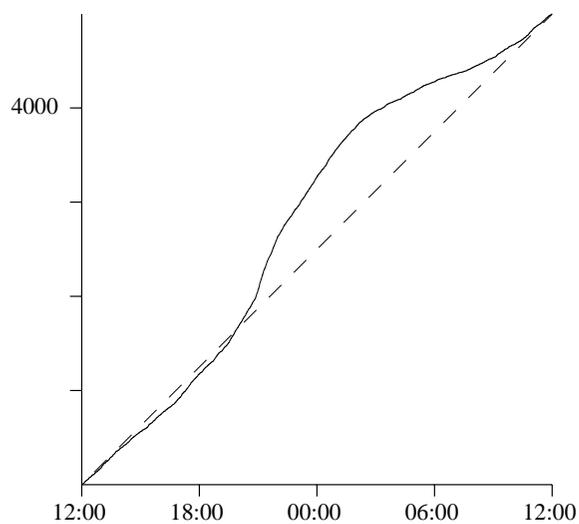
データ自動収集プログラム竹島佑介君（2008年度東北大M2，現富国生命）

共通の時刻依存性の抽出

- 共通の時刻依存性 : $A(t) = \int_0^t a(u) du$; $w_i^{(N)}(t) = w_i^{(N)} a(t) > 0$

累積総書き込み数 $S^{(N)}(t) \simeq \sum_{i=1}^n \rho_i^{(N)}((0, t]) = A(t) Z(N)$ でスケール

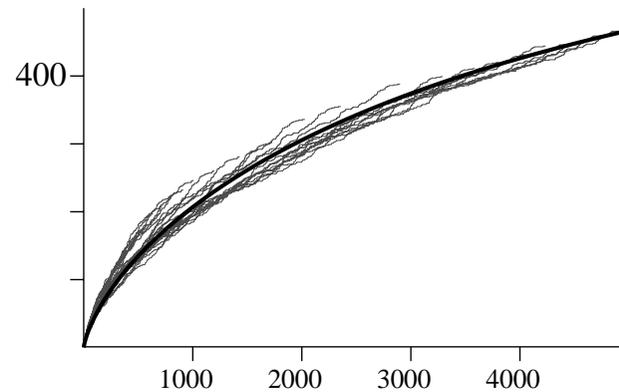
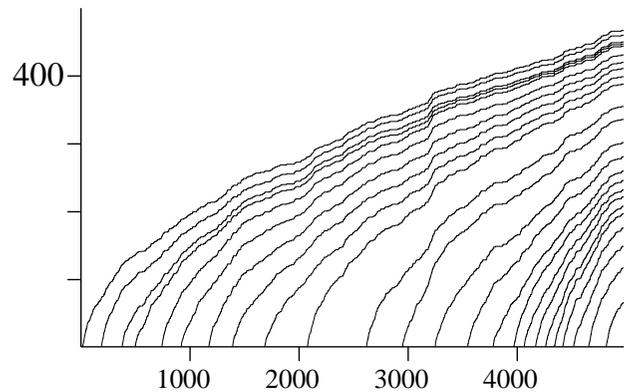
$$y_C(t) \simeq 1 - \int_{\mathbb{R}_+} e^{-w S^{(N)}(t)/Z(N)} \lambda(dw); \quad Z(N) = \sum_{i=1}^N w_i^{(N)}$$



集計 小林孝長君

(2009年度東北大M2 , 現仙台二高)

共通の時刻依存性の検証と Pareto 指数の普遍性



実線： $y_C(A^{-1}t)$ ，Pareto 分布， $b = 0.872$

- 共通の時刻依存性は実用的に良さそうである
- Amazon.co.jp も 2ch.net も共通して $b < 1$

本の購入はベストセラーに集中，書き込みは人気スレッドに集中

Amazon.co.jpはロングテールビジネスか？

先行研究：経営学的研究

Chevalier, Goolsbee $b = 1.2$ (Online bookstore の価格弾力性)

Brynjolfsson, Hu, Smith $b = 1.148$ (consumer welfareの評価)

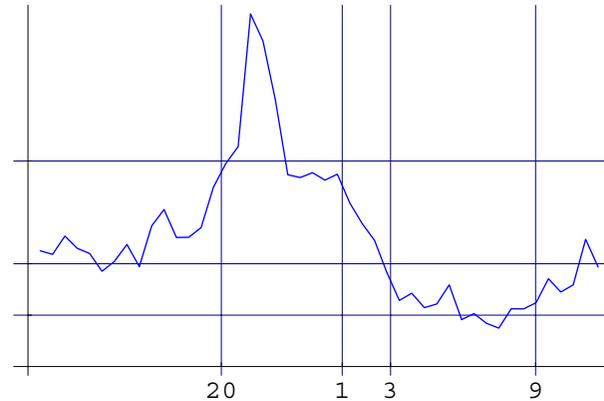
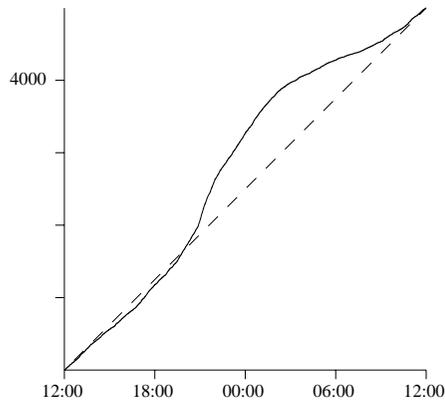
選んだ本の期間あたりの平均販売量を多数の本にわたってとる原始的方法

我々の結果と矛盾 - **Online retailの経済効果は先行主張ほどはない？**

インターネットを生かしたロングテール型リテールの草分けとして有名なアマゾン書店は、ロングテールビジネスモデルではない。ロングテールの「成功例」として C. Anderson, 'The Long tail' などの記事という宣伝費無料の大規模宣伝を勝ち取り、実際は古典的大ヒットビジネスで利益を上げている、と思われる。

傍証： Amazon が売上げ詳細を隠すと言われている...

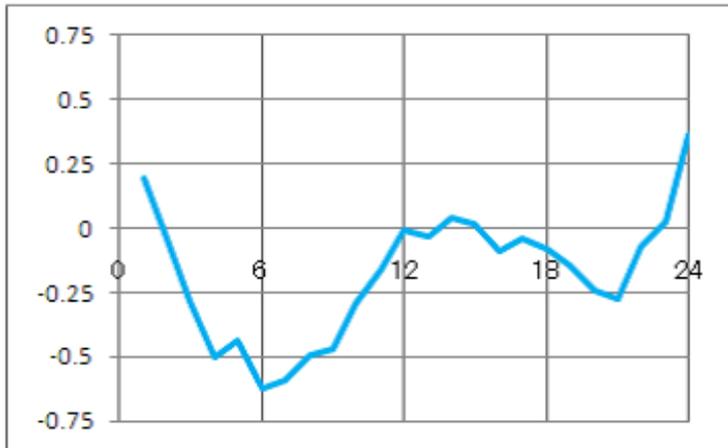
昼夜差について (2ch.net データ)



- 20–01 時に書込活動活発，03–09 時に不活発

Amazon.co.jp データでも $O(10^2)$ の本の総ジャンプ数を数えれば原理的に可能
1 時間単位なので，1.5 日/1 冊 (10 万位)–9 日/1 冊 (30 万位) の本を集める必要
(cf. 10^3 位=20 分/冊, 10^2 位=1 分/冊)

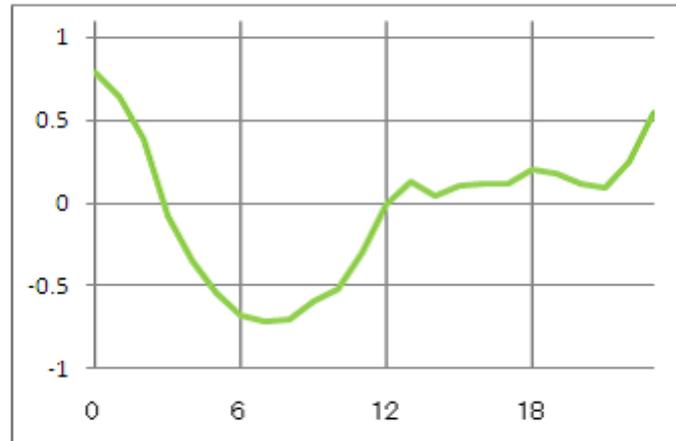
昼夜差について (Amazon.co.jp データ)



方法 1 (ジャンプ直後のデータ $aA(t) \ll 1$)

$$x_C(t) \simeq N\Gamma(1-b)a^b A(t)^b + O(A(t))$$

24時間間隔で2重に比をとって N, b, a を消去



方法 2 (テール付近のデータ)

順位の平均時間変化を線形近似

- 22–00時に購入活動活発，03–09時に不活発 (注．1.5時間前)
- 2ch.netと矛盾はない
- 夜更かし型であって仕事時間型ではない

5 . まとめと先の話

- Stochastic ranking process
(move-to-front 規則の流体力学的極限)
 - 巨視的な量 (分布) に注目した無限粒子極限
 - 偏微分方程式の解に基づく収束定理
 - 巨視的視点からの自然な拡張 (時刻依存性を持つジャンプ率)
- Amazon.co.jp データへの応用と 2ch.net データによる検証
 - 逆ラプラス変換によるジャンプ率 (売れ行き) 分布の統計的推定
 - Amazon.co.jp の顧客も 2ch.net の書き手も深夜活動し朝方寝ている
 - Amazon.co.jp も 2ch.net も上位人気対象に活動が集中
 - **数学が現在の応用の役に立たないというのは誤りである**

Stochastic ranking processのこれから

- 流体力学極限の技術 (martingale) による証明の整備と結果の精密化 (永幡幸生)
- 空間位置に依存するジャンプ率
 - 偏微分方程式の自然な一般化 (係数の位置依存性)
 - ランキングの売れ行きへの feed back (local time)
- 個別の本のライフサイクル (栄枯盛衰) と定常な場合の差 (検出問題)
- 微分方程式 (macro) を極限に持つ粒子系 (micro) の存在問題
(物質に関する巨視的現象を分子運動として説明できるか?)

ランキングへの応用の展望

- 2ch.net 自動収集データによる位置ジャンプ率分布の極限定理の検証
- Amazon.co.jp データからの日周期の定量的導出
- 総粒子数の緩やかな増加（新規出版年8万冊）のモデルへの組み込み
- 機関リポジトリの論文アクセス（アクセスの集中）
- データを逆ラプラス変換して分布を統計的に推定する一般原理

Stochastic ranking processを離れた方向

(背後の社会現象の理解が進めば , データによる ranking process の検証も進む)

- Pareto 分布が社会学や経済学では良いのか ? (対数正規分布の主張も)
- Long tail をすくい上げる良い仕組みはあるか ?
 - [Amazon.co.jp](https://www.amazon.co.jp) も 2ch.net も $b < 1$
- 流行とは何か (モデル化) , どのように分析するか

文献

K. Hattori, T. Hattori, Stochastic Processes and their Applications **119** (2009) 966–979.

K. Hattori, T. Hattori, Funkcialaj Ekvacioj **52** (2009) 301–319.

K. Hattori, T. Hattori, RIMS Kokyuroku Bessatsu (2010), to appear.

Y. Hariya, K. Hattori, T. Hattori, Y. Nagahata, Y. Takeshima, T. Kobayashi, Tohoku Mathematical Journal (2011), to appear.

<http://web.econ.keio.ac.jp/staff/hattori/amazonj.htm>

Google 検索キーワード 服部哲弥